



かごしま市広報紙編集サポーターの皆さん(計5人)
左から大塚彩花さん、原田祐一さん、海老原久美子さん、木佐貫靖さん、瀬戸口彰子さん

今回は、かごしま市広報紙編集サポーターの皆さんに、広報紙作りに参加した感想や行政と協働することの意義や課題などを討論していただきました。

◆かごしま市広報紙編集サポーターとは？

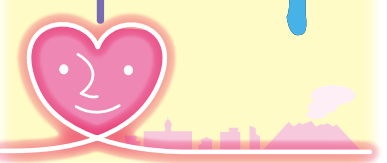
公募で選定された市民から構成され、広報紙「かごしま市民のひろば」環境特集号などを市と協働して発行しています。

パートナーシップシティ

市民とのパートナーシップによるまちづくりを進める「鹿児島市」。
福祉や教育などさまざまな分野にわたる地域課題の解決に向け、行政と協働して取り組む市民活動団体やNPO法人などを紹介します。

Vol.21

かごしま市広報紙編集サポーター



市と協働して広報紙作りに参加した感想は？

原田さん▼自分が携わった広報紙が自宅に届いたときは、達成感みたいなものを感じましたね。市の役に立ちたいという思いが少しかなった気がします。市の取り組みに市民が参加することは、一体的なまちづくりのために、とても大切なことだと思っています。

海老原さん▼自分たちが作った広報紙が市内の全世帯に配布されたと思うと、本当にうれしいです。家族や知人からの反響もあって、一人でも多くの人が広報紙



を読むきっかけを作れた気がしますね。

大塚さん▼行政の用語は難しい言葉が多く、広報紙を作るときも、最初は分からないことが多かったのですが、活動を通してたくさんの方が見えがあり、とても貴重な経験になりました。



木佐貫さん▼自分の空いている時間で、少しでもまちづくりの役に立てればと思います。できるだけさまざまな活動に参加するよう心掛けています。限られた時間の中の広報紙づくりは大変でしたが、アイデアを出し合いながら、いろいろな考え方を勉強できました。

瀬戸口さん▼広報紙に私たちサポーターが考えたデザインも採用されたことが特にうれしかったです。

ね。海老原さんが言ったように周りからの反響もとても大きかったです。また、自分自身もとても勉強になりましたし、取材を通して地道にまちづくりを頑張っている人たちがいることをあらためて実感できました。



地域の交通安全に関して取材する瀬戸口さん(左)

広報の今後の課題は？

原田さん▼仕方のないことかもしれませんが、市民と市との間には、まだ意見のすれ違いがあると感じます。その隔たりをなくしていくためにも、意見交換の機会をもっと増やしていくことが大切だと思いますね。

木佐貫さん▼市民が市にまかせっぱなしという部分も多いと思います。例えば、子育て支援施設や生涯学習施設など、市民にとって役立つ施設やサービスがたくさんあるのにも

関わらず、知らない人も多いことで十分に活用されていない現状がありますよね。もちろん市側から広報することも必要ですが、市民自らも広報紙やホームページなどで情報を収集していかねければ意味がないと思います。



海老原さん

▼私もそう思います。何で知らないのだろうと思つて聞いてみると、広報紙など市からのお知らせをほとんど見ないという現状があるようです。

瀬戸口さん▼そのためにもやはり、一人でも多くの市民が読んでみたいと思えるような工夫が必要になってきますよね。例えば、若い読者層を増やしたいときには、若い世代の頑張っている団体を紹介するなど。知人や家族が載ると、そこから読者は広がっていくと思います。



行政と、協働、することの意義や課題は？

海老原さん▼行政と協働すること

は、よりよいまちづくりにとって欠かせないことですよね。これまでは、行政とのつながりといえば、選挙に参加することくらいしかないと思っていました。だから、今回広報紙作りに参加して、自分の意見を伝えることができ、とても感謝しています。このような活動を私の周りの人にも広めて、そこからさらに広がっていくことが理想ですよ。そのためにも行政との協働は必要だと思います。

大塚さん▼確かに実際に参加したり、現場に足を運んでみるのが大切であることを実感しています。社会人になつても、例えば町内会の活動に参加するなど、自分にできる身近なことから、まちづくりに参加していきたいと思います。

原田さん▼選挙に関する取材を通して、民主主義国家にいる自分たちが市の活動に参加することは、私たち市民の義務であるということを確認させられました。「市は市民のために」ということはもちろんですが、「市民は市のためにできることはやる」、お互いが対等の関係であり、それが前提でこそ、初めてよりよいまちづくりができるのではないかと考えさせられました。「協働」は決して特別なことではありません。皆で共通認識を図るべきだと思います。な

かなか難しいことではありますが、例えば教育の中に盛り込むくらいできれば理想的ですね。

木佐貫さん▼そもそも協働の必要性の背景には、人と人との絆やつながりが希薄化していることがあげられますよね。機会あることに地域のイベントや町内会活動に参加して、人と人との関わりを深めることが、協働につながり、よりよいまちづくりになっていくのではないかと思います。鹿児島市では、まちづくりの指針となる第5次総合計画においても「市民との協働」を基本目標の一つとしてしていると聞いています。市にまかせっぱなしにするのではなく、私たち市民も積極的にさまざまな活動に参加することが大切ですよ。

